

災害は忘れたころに……

九月一日は防災の日

よく知られた「地震、雷、火事、親父」を、今日流に「地震、台風、火事、津波」などという人もいます。ようですが、それはともかく地震の恐ろしさは昔も今も変わりませ



ん。日本は、世界の地震の約一〇％が発生しているといわれるほど地震の多い国です。体で感じるこ

ブロックべいは大丈夫？

昭和五十三年六月に起こった「宮城県沖地震」で、倒れたブロックべいが多くの人命を奪ったことは、まだ記憶に新しいところです。プライベートを守り、防犯にも役立つ

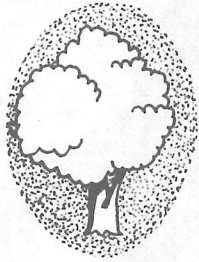
横芝郵便局長に 加瀬喜一さん

潮来信明郵便局長が退職されたため、新しい局長に加瀬喜一さんが就任しました。



新しく横芝郵便局長となった
加瀬喜一さん

加瀬さんは、七月十七日付で日向郵便局から異動となったもので、今後は「前任の潮来局長同様に、町民のみなさんに親しまれるよう努力していきたい」と語ってくれました。



のできる「有感地震」は、一年間に千件前後発生しています。九月一日は「防災の日」です。大正十二年九月一日の関東大震災にちなんで、昭和三十五年に設けられたもので、災害についての認識を深め、常にその心構えを怠ることなく、いざという時に備えよう——というものです。お宅の地震対策は大丈夫ですか。

つべいが、なぜ、一瞬のうちに恐ろしい凶器になってしまったのでしょうか。その後の調査では、基礎部分に鉄筋がなかったなどのずさんなつくりが指摘されています。このような惨事を防止するため、建築基準法では、ブロックべいの高さ、つくり方などについて規定を設けています。ブロックべいをつくる際には、この規定によらなければならぬこととはもちろん、すでにあるブロックべいでも、正しく工事がされていないと思われるものや、古くてガタついている場合は、早目に専門家の点検を受け、必要に応じて補強をしておきましょう。日ごろのちよっとした心がけがいざという時に、あなたの命を守ります。*ブロックべいの造り方は昨年十二月の広報紙に掲載。

万一出火した場合には、初期のうちに火を消すことが大切。大声で隣近所に声をかけあい、みんなで協力して消火につとめる。



地震の心得

どんな大きな地震でも、大揺れは1分程度といわれている。あわてて外に飛び出すと、落下物などにより負傷するケースが多いので、周囲の状況をよく確かめて落ちついて行動する。

たくさん負傷者が出る救助の手が回らないこともある。協力しあって、応急救護をしよう。急場にはおたがい助け合おう。



津波や大火災で避難をするときは、消火、救急救護活動などの障害となるので自動車は絶対に使わず、必ず徒歩で避難する。持ち物は最小限にとどめ、背おうなどして身軽に行動できるように両手をあける。

過去の例から大地震で怖いのは火災。地震を感じたらすばやく火の始末をする。



狭い路地、へいぎわ、がけの上やがけ下、ブロックべいのそばなど、危険な場所にいるときは急いで離れる。

